

保育者養成校におけるオペレッタ創作活動の教育的効果

— 2011 年度「総合表現演習」の実践から —

古屋 祥子 沢登美美子 高野 牧子

要 旨

本稿は、2011 年度の授業「総合表現演習」における、オペレッタの創作活動の実際と公演準備等の内容をまとめ、この授業の成果を明らかにするものである。

まず、実施スケジュールと共に作業の分担内容を振り返り、現場の状況を再確認した。次に、オペレッタ公演に関し、来場者にアンケート調査を行い、学生のねらいや練習成果が十分に伝わる内容であったことが明らかになった。

さらに授業後、履修者を対象としたアンケート調査やレポート課題の集約等を行い、この授業が学生の保育者としての能力養成にどれだけの効果があるのかを考察した。結果は、いちから自分たちで創り上げ、人に感動を与えられるような発表を成功させたのだという共有の実体験が、全ての学生に大きな満足感・充実感をもたらし、個々の学生の自信形成と、今後の様々なことに立ち向かう勇気や向上心の源となったことが確認された。また、表現力においては総合的に大幅な向上が見られた。オペレッタ創作は団結力や協調性、仲間を大切に思う気持ち等の人間性を養う格好の活動であったことが明らかとなり、課題遂行能力や問題解決能力も培われたことが示唆された。

キーワード：創作オペレッタ、総合表現、専門性の向上、人間性

はじめに

本学人間形成学科では、最高学年の4年生を対象に、授業「総合表現演習」を開講している。この授業は、大学での学びの集大成として学生が子ども向けのオペレッタを創作し、発表するものである。本稿では、昨年度の実践報告に引き続き、実際の制作と公演に関わる準備等の内容をまとめ、現場の状況の把握と今後の問題点を検討する。さらにこの授業が学生の保育者としての能力養成にどれだけの効果があるのか、その実態を調査し、今後の授業の推進に役立てたいと考える。

1、「総合表現演習」のねらいと枠組み

(1) 授業目的

「総合表現演習」は本科に入学した学生が、4年になるまでの3年間に学んできたあらゆる分野での学習¹を、横断的かつ総合的に捉える実践で

あり、特に、音楽、造形、身体表現を中心とした表現領域から、総合芸術の視点を持って表現活動を行うことを目的とした授業である。この機会に学生たちは「子どもにとっての表現とは何か」という基本的な考察をし、幼児の発達段階に見合った内容の表現を創作する。

(2) 授業内容

テーマ設定、脚本制作、舞台づくり（演出、出演、音響、照明、衣装、舞台美術、ダンスなど）、公演のための諸準備を学生が分担し、総括的に取り組み、オペレッタとして発表する。発表は本学講堂で近隣の保育所や幼稚園に通う幼児を招いて行う。全ての制作・進行は学生が主体的に行い、教員はアドバイス・補助に徹する。授業実施は、2011 年前期、2 時間続き 180 分 15 コマであり、履修者は、人間形成学科 4 年生 22 名であった。

(所 属)

山梨県立大学 人間福祉学部 人間形成学科

1 保育内容（言葉・人間関係・身体表現・造形表現・音楽表現・演劇表現・健康・環境）、乳幼児心理学、乳幼児教育論、教育基礎論、対象理解、乳幼児と遊び、保育とジェンダー、伴奏法、音文化演習、歌唱演習、絵本制作、造形演習、教育心理学、幼児音楽、教育方法論、教育課程論、乳児保育、小児保健、保育学、保育学実習、障害児保育などの授業

2、授業の実際

(1) 授業の流れ

次項の表は制作過程を分担ごとにまとめた結果である。また、その様子の一部を写真で紹介する。



授業成果発表 グループごとに活動した内容を授業の最後に全員に報告し、進行状況を共有する。



個別歌唱指導 実際の舞台に立ち声の通りを確認しながら、指導を受ける。



舞台壁画作成



舞台衣装作成



舞台音楽作成・編曲



演出作業



舞台稽古前 発声練習



ダンス作成・指導

	脚本・演出	美術（大道具・衣装）	ダンス	音楽・照明
日付、担当	井出、伊藤、井上、河合、田中、平井	井出、井上、宇井、大塚、小尾、柏、河合、鷹埜、田中、兵永、深沢、山根、高橋	大杉、貞木、小林	網倉、宇井、小尾、近藤、笹本、鷹埜、中込、小林
4/14	テーマ・モチーフ決め、担当・役割決め→今後の予定を話し合う			
4/21	第1回脚本チーム集まり シナリオ作り（登場人物、設定、話の大枠を考える）	講堂の寸法測定、必要なものを書き出す	イメージを膨らませる	イメージを膨らませる
4/28	第1稿をもとにおおまかな流れを再度確認 キャラの確定、配役決定	背景を考える	つくし・はちのダンス作成	毒きのこ・はち・ちょう・つくし・チューリップ・ばら・ゆり・ひま・枯れ花 歌制作
5/12	第2稿の再考、修正 全体で脚本の流れなどを確認	本の土台、草むら作り イメージを絵にする	毒きのこ・チューリップ	メインテーマ・アゲハ完成
5/19	タイトルの決定、プレゼント作り	背景用の布を借りに行く 材料の買出し	ゆりばら	くものこ
5/26	時間計測、脚本配布 時間計測 読み合わせ	ステージバックの背景作成 衣装作成（時間外活動開始）	キャラクター紹介のダンス創作と伝授	チョコ、家来の曲完成
6/2	台本の推敲、読み合わせ	絵本完成 小道具作り ひまわり帽子作り		伝授
6/9	半立ち稽古（出はけの確認、台本の話し合い）	背景下書き モビール作り ちょうはちの羽作り 衣装作成（時間外活動開始）		照明の使い方を覚える 楽器練習
6/16	シーン練習	背景色塗り 毒きのこ・ちょうはちの衣装作り		シーンごとのカラーを決める シーン毎音入れ練習
6/23	脚本推敲（ラスト、動き方） 講堂で立ち稽古	受付飾り・門制作 くも・ばら衣装制作		音楽隊の入場シーン完成
6/26	シーン練	衣装制作 大道具制作	メインのダンス創作	BGM・効果音の試行錯誤 発声練習開始
6/27	通し稽古 ビデオ鑑賞 シーン練習	つくし・ちょうりっぶ衣装制作	メインダンス創作 伝授	照明のタイミングを合わせる
6/28	シーン練習	小道具・木制作 衣装制作		微調整
6/29	グループ活動	制作		
6/30	シーン練習、通し	背景を講堂に取り付ける 音楽隊衣装制作		
7/1	子どもたちへのプレゼント（プレスレット）作成 照明プラン役割の打ち合わせ 通し稽古	制作 おまつ・つくし頭作り	メインダンス伝授 体系指導	制作した曲を冊子にまとめる
7/2	シーン練習 ダンス練習 通し			
7/3	シーン練習 ダンス練習 通し 微調整			
7/4	シーン練習 ダンス練習 通し			
7/5	シーン練習 ダンス練習			
7/6	シーン練習 通し			
7/7	シーン練習 通し 微調整			
7/8	通し稽古 ビデオ鑑賞 シーン練習	舞台セット 通し準備	通し準備	通し準備
7/9	シーン確認			
7/10	シーン・ダンス練習 通し稽古			
7/11	リハーサル稽古			
7/12	確認 リハーサル			
7/13	リハーサル 注意点の指摘	モビール制作完成 壊れた大道具の修復 最終調整 取り付け 設置 会場の装飾	リハーサル 立ち位置等最終確認	リハーサル 音響・照明最終調整
7/14	最終リハーサル、本番			

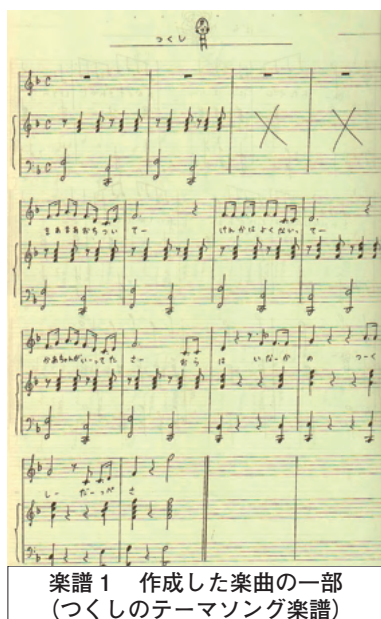
(2) 各分担とその役割内容

①脚本

話し合いで決定したテーマを受けて、登場人物、ストーリーを決定。対象年齢を考慮し台本作成。校正(4回)。資料1 台本参照。

②音楽

登場人物ごとにキャラクターに合った音楽を作詞・作曲し、演技者に歌唱指導。場面に合った挿入曲の作成。ダンス音楽の作曲。楽器編成の決定。編曲。本番での実演。楽譜1、本番 VTR 参照。



楽譜1 作成した楽曲の一部
(つくしのテーマソング楽譜)

③美術(大道具)

壁画・舞台装置(回転型・大型絵本)・会場受付装飾・会場入り口装飾門の作成、舞台飾り付け。トータルデザインを考えつつ、場面転換方法、低コストを考慮。写真参照。

④美術(衣装・小道具)

登場人物ごとにキャラクターに合った衣装を考案し、作成。低コストに抑えつつ使用する素材を選択し、演技者の体型や要望に合わせる。写真参照。

⑤ダンス

登場人物ごとにキャラクターに合ったダンスを創作し、演技者に指導。全員で一緒に歌うテーマソングに振り付けし、歌やせりふに合わせ調整、指導。練習 VTR, 本番 VTR 参照。

⑥演出

脚本チームのメンバーが中心となり細かな調整

を繰り返し行う。練習 VTR, 本番 VTR 参照。

⑦監督

全員の行動や意見をまとめ、スケジュールや練習内容の管理など、制作・本番ともにリーダーとして取り仕切る。

(3) 発表会

2011年7月14日(木)、学生制作・出演の創作オペレッタ「みいつけた!」を、甲府市内の幼稚園・保育所に通う園児約200名を招いて上演した。上演はもちろん、当日の会場や配布パンフレットの準備に加え、座席決めや案内状送付などの作業も学生が主体的に取り組んだ。

・上演スケジュール

10時半 開場 園児を席に誘導

(案内、受け付けは形成3年生に依頼)

11時 開演 導入(5分)

上演(40分)

退場(5分、キャストが舞台から降りて誘導役をする)

11時50分 閉演



導 入

オペレッタの上演前に、音楽隊が演奏しながら登場。大型絵本の大道具を使っておはなしの導入を行った。

3、発表会成果

(1) 来場者アンケート調査

- 実施方法：来場者(園児は除く)に公演前、受付で用紙を手渡し、退場口に回収ボックスを設ける。園の先生には、後日郵送で返信してもらう。
- 結果：有効回答数は60。内訳は、本学学生1～4年生44名、一般18名(卒業生、教員、幼稚園・保育所の先生を含む)。なお、本番時回収は40。リハーサル時は22。下記のとおり、

多くの項目において「とてもよい」が選ばれ、自由記述においても良いコメントが大多数であった。

●表1 本番時の評価（計40名）

	とてもよい	よい	どちらともいえない	その他(6)
Q1 オペレッタの内容はいかがでしたか？	31	6	1	
Q2 楽しめましたか？	36	3	1	
Q3 テーマは伝わりましたか？	34	6		
Q4 キャストの演技は？	35	4		1
Q5 美術（衣装、大道具など）は？	38	1		1
Q6 音楽（歌や効果音など）は？	35	4	1	
Q7 ダンスは？	36	3	1	

●表2 リハーサル時の評価（計22名）

	とてもよい	よい
Q1 オペレッタの内容はいかがでしたか？	21	1
Q2 楽しめましたか？	22	
Q3 テーマは伝わりましたか？	22	
Q4 キャストの演技は？	20	2
Q5 美術（衣装、大道具など）は？	22	
Q6 音楽（歌や効果音など）は？	21	1
Q7 ダンスは？	21	1

●自由記述 以下一部を抜粋（カッコ内は記述者の所属）

- ・みなさんの情熱に感動しました。助け合うことの大切さが伝わってきました。（1年生）
- ・テーマソングから効果音まで、手作りの音楽だったのがすごいと思いました。（2年生）
- ・オリジナルということでしたが、場面にあったものやキャラクターにあったものばかりで、本当にすごいなと思いました。（2年生）
- ・子どもたちへの語りかけなども、4年間の教育がしっかり身につけているようで、未来の先生が見えました。（一般）

4. 授業成果の考察

本章では下記3項目の調査をもとに、本授業における教育的効果について考察する。

（1）学生アンケート調査から

発表会終了後、履修学生22名に対し下記のようなアンケートを行った。

Q：あなたはオペレッタを通じて、どのような表現力が特に身についたと感じますか？ 取り組み前と発表後の自分について、各表現領域について自己評価してください。

結果は次のグラフのとおり、多くの学生が各領域において表現力の向上を感じていることが示された。

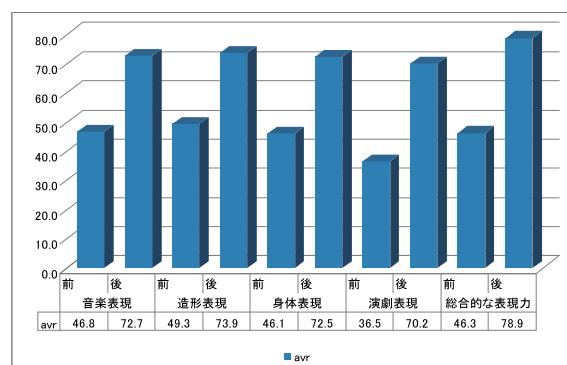


図1 学生の自己評価

（2）学生の振り返りから

公演終了後、履修生22名は「オペレッタ創作を通して学んだこと」というタイトルでレポート課題を提出し、この取り組みにおける振り返りを行った。この中から、全体に共通した内容や特筆すべき記述のいくつかを抜粋して、以下に記載する。一連の経験を通し、学生全員が今後につながる多くの学びを得たことが読み取れる。

- ・「表現する力を今まで以上につけることができたのではないかと感じています。」（同様22名）
- ・「今までに経験したことがないほどの達成感や充実感など、大きな喜びを得ることができた。」（同様17名）
- ・「仲間と協力することの大切さ、全員でひとつの目標をやり遂げるための団結力を学んだ。」（同様17名）
- ・「今回学んだことを生かしていきたいと同時に、今後も様々なことに挑戦していきたい。」（同様12名）
- ・「仲間や先生、支えてくれた方みんなに感謝したい。」（同様11名）
- ・「仲間と深くかわり合い、理解し合えた。」（同様7名）

- ・「皆が自分の気持ちを伝えることができるようになり、皆で良いものを作り上げていこうとする姿勢が感じられた。」(同様6名)
- ・「練習を重ねていく中で行き詰ることもあった。(中略) そんな時には友だちや先生方からのアドバイスを受けて、改善することができたと思う。」(同様6名)
- ・「『楽しかった』『面白かった』などという子どもたちの言葉は、私たちにとって大きな自信となったとともに、今まで感じたことのない大きなやりがいにも繋がった。」(同様5名)
- ・「技術や度胸は、保育者になるときに役立ちます。」(同様4名)
- ・「経験したことのないことに取り組み、新たな挑戦ができたと思う。」(同様3名)
- ・「作った曲に振り付けが付き、それをキャストが歌いながら演じている姿を見ることは、本当に嬉しく、もっと頑張ろうと思うことができました」(同様3名)
- ・「『創り上げる感動』をこれからもずっと忘れないでたいです」(同様2名)
- ・「音楽・ダンス・演劇表現・制作など多方面に携わり、それらを総合してひとつのものを作り上げられたということは私の中で大きな自信になっていくだろう。」
- ・「壁にぶつかっても諦めずに一人ひとりの力を合わせて支え合っていけば、私たちにも見てくれる人に感動を与えられる作品が創れるということ (中略) …。私がオペレッタ創作によって得た感動や学びは、数えきれないほどたくさんあります」

(3) 授業評価から

本学では全ての授業に対し、半期ごとに「学生たちによる授業評価アンケート」の調査が行われる。内容は①授業科目について、②授業方法について、③学生本人について、④総合的な授業の評価、の4項目に分かれた全18項形式で、学生からみた授業の評価を集約し、満足度等を検証するものである。

「総合表現演習」アンケート結果では、「満足度」の項目は5.00点の満点評価であった。「自主的に

授業以外に関連した学習をした」や「この授業には真面目に出席し、意欲的に取り組んだ」の項目でも満点であり、履修生が自主的に意欲を持って取り組んだことが良く示された。さらに、「学生が発言しやすい雰囲気をつくり、参加を促していた」「授業の中で学生の反応や理解の程度を確認にしていた」他5項目においても満点評価となり、また、全ての項目においても学部平均値を大きく上回る結果であった。このことから、学生たちは、教員を含む制作に関係したメンバーが協同しながら自らの手で創作物作り上げたことを実感し、その成功に対する達成感と充実感を大いに得たと読み取ることができるだろう。

(4) 考察

以上の集約したデータにより、学生の本授業による教育的効果を下記のように考察できる。

① 表現能力の向上

音楽表現、造形表現、身体表現、演劇表現等において、全ての学生に躍進的なスキルの向上がみられた。人前で大きな声で歌い演じることを恥ずかしく感じていた学生も、みんなで良いものをつくりたいという思いから努力し、いつの間にかそこに楽しさを見出すようになり、造形表現に苦手意識を持っていた学生が共同で大きな背景の絵を描いたり大がかりな舞台装置をつくる中で、自らができる作業が増え新しいアイデアが出せるようになるなどの伸長があった。ダンスなどで体の動きが硬い学生も、まわりからのアドバイスを受け入れたり、自分のVTR映像を検証しながら積極的に改善に取り組むことで、試行錯誤ののちには進歩があることを学ぶなど、得意であった表現能力が向上しただけではなく、苦手ジャンルの克服または改善も見受けられた。学生自身の自己評価でも、飛躍的に高く自己評価し、表現能力の向上を学生自身も実感し、自信につながったと考えられる。

② グループ活動の意義

仲間と協力して一つの目標に向けて心を合わせる喜びと難しさや、ともに問題を乗り越えながら達成したことによる満足感・充実感、数々の意見交換や共同作業・演技練習の中から生ま

れる個性の認め合いの重要性、仲間のアイデアや能力から学びさらにお互いに高めあいながら創造的な表現を創り上げていく嬉しさ等、仲間や応援者の協力の大切さを多くの学生が感じ取った。

③ 大きな達成感からくる感動体験

いちから自分たちで創り上げ、見てくれる人に感動を与えられるような作品として発表を成功させたのだという共有の実体験は、全ての学生に大きな満足感・充実感をもたらした。この達成感はひとりひとりの自信につながり、さらに今後の様々なことに立ち向かう勇気と前向きな向上心の源になった様である。

④ 表現者として伝える素晴らしさの体感

学生の発表に対して観客となった子どもたちはとても集中して観劇し、素直に反応してくれた。この姿に強いやりがいと喜びを感じた学生も多く、保育者としての基本的資質となる子どもへの関心と興味を改めて確認した様子があった。相手に何かを提供することができることは、提供する側にも大きな喜びをもたらすことを学び、表現者となって子どもたちへ伝える力を伸ばすことにもつながったと感じられる。

⑤ 問題解決能力の向上

今回の履修生の中には積極的に自分の意見を口に出して伝えない学生が多く、「まあいいや」とするような雰囲気が全体的にあったようだが、本授業を通して、個々の意見を受け入れ問題を解決していこうとする姿勢が全体に広がったという成果が多く報告された。それまで意見を内に秘めがちであった学生もしっかり伝えればわかってもらえるのだということに気づき、受け取る学生も自分の主張だけではなく作品を良くしていくために必要な意見を吸い上げて実現していこうとする姿勢になったという変化があった。

その他、自分の制作したものが仲間の手を経て発展していく面白さの発見や、あがり症の克服、程好い緊張感の快感、考えたり話し合うことと行動してみるもののバランス等、個々に様々な学び

があったことがわかった。

5、授業実践を通して

先輩学年によるオペレッタ発表を1年次から3年間見てきた今年の履修生は、4月当初、毎年個性がありレベルを上げていると好評だった過去の公演に対し、憧れと同時に、それと同レベルに仕上げられるのかというプレッシャーと、自分たちでできるのかという不安を強く持っている様子であった。そして、学生のレポートにもあったが、今年度の履修生は自分の意見を言う人が一部に限られ、その他の消極的な人は判断を人任せにしてしまうような雰囲気があったため、はじめのうちはオペレッタの共同制作はうまく進まずに苦労したようである。この頃は話し合いの時間が多く、なぜ行動し出さないのかと不思議に思うこともあったが、クラスの雰囲気自体が変わるくらいみんなで意見を出し合い、問題を解決しようとした重要な時間であったことがわかった。

分担ごとでも細かい問題はあったようだが、学生の負担を仲間で調整している様子があり、協力し合うことの重要性や、議論や作業を通して学び合う楽しさを強く実感しながら作業が進められるようになっていった。

発表当日の舞台の仕上がりは、アンケート結果や来場者の声からも、学生が制作から上演まで全て主体的に取り組んで創り上げたものとしては、とても良い出来であったと言えるだろう。バトルやアクションシーンなど派手な演出の場面を設定せず、感動の冒険物語という内容であったため、男児も楽しんでくれるだろうかなどの心配があったが、子どもたちは約50分のステージを終始飽きることなく、舞台に集中していた。学生たちからも、子どもたちを目の前にした本番の舞台では、練習やりハーサル時に比べ、どのシーンにおいても子どもたちの反応を肌で感じ取りながら演技が伸びる様子がうかがえた。照明や音響のタイミング、舞台美術による場面転換など、練習通りスムーズに進められ、練習を上回る舞台となった。また、全てをオリジナル曲・生演奏でまとめた音楽による会場効果は大きく、これにより常に緊張

感を伴った心地よい全体感が演出されていた。舞台袖での様々な楽器演奏も、少人数でよく練習し、凝った曲・効果音づくりができたといえる。舞台後半の見せ場は主人公の心の葛藤シーン後の全員によるメインテーマ曲の合唱(ダンス付き)であったが、会場全体に演者が配置され、会場の一体感を生んだ。

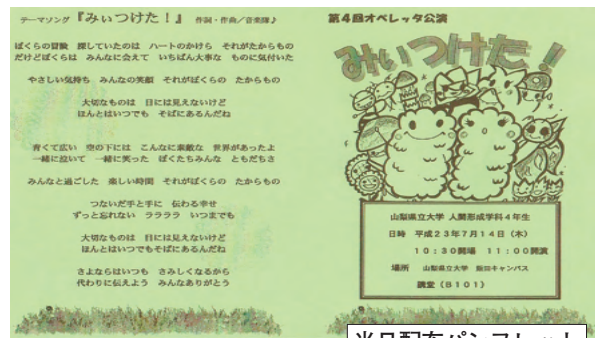
この創造的な時間と空間を、演者・スタッフ・観客のみんなで共有できたことで、学生は「人の心に働きかけることができる」という表現の持つ奥深さを体感したと思われる。

おわりに

今後の課題としては、オペレッタ制作においてより大きな感動体験を創造するために、芸術性の向上と、対象者となる幼児に向けた表現のあり方のさらなる追求が挙げられるだろう。音楽、ダンス、美術などの各芸術分野、また幼児に対する教育分野において理解を深めていくことと同時に、学生の見聞を広め、受け取る側の視点を把握するためにもプロフェッショナルによる舞台を鑑賞する機会を設けることを検討していきたい。また、公演会場である講堂の音響効果、照明機材設備などの改善など、学生たちの自由な表現を再現するための環境づくりを充実させていきたい。

授業終了後、本オペレッタの再公演が本学学園祭で行われ、多くの来場者を迎え良い評価を得たことを付け加えておく。これは、履修した学生たちから、授業で作りに上げた公演を「一度だけで終わらせるのはもったいない」という意見で実現し、学生にとっては、もう一度自分たちで創り上げた作品を振り返る好機となった。

今回の調査では、それぞれに学生が得たものについて明らかにしたが、今後、これらの学びが全ての履修生の将来において有意義に活用されることを期待したい。



当日配布パンフレット



資料 台本「みいつけた！」

キャスト

くも	くーちゃん	大杉
	もっくん	伊藤
音楽隊	網倉	近藤 笹本
天の声	神宮宇	(特別出演)
ちょうちょ	宇井	小尾
はち	鷹野	中込
アゲハ蝶	貞木	
松茸のお松	大塚	
しめじ	高橋	山根
毒キノコ	平井	
チューリップ	柏	兵永 深沢
ひまわり	小林	田中
バラ	井上	
ゆり	井出	
つくし	河合	

.....

幕（閉） ステージ上に大型本を設置

スポットライト 音楽隊 マーチングで登場
♪メインテーマ

音楽隊 みなさーん！こんにちは！今日は来てく
れてありがとう ほくたちは 森の
音楽隊
今から始まるお話は 楽しくて 嬉しく
て 元気になれるんだ！ じゃあ 今か
ら この絵本を開けるよ（絵本ひらく）
おはなし はじまり はじまり はじま
り ーマーチングで退場

絵本を片づける 幕（開）

スポットライト くも 倒れている

くーちゃん 「ここ、どこ？」



もっくん	「ここ、どこ？」
天の声	「お前たち、聞こえるか？」
くーちゃん	「あ、パパだ！」
天の声	「ここは、お空の下の世界だ。」
もっくん	「なんで僕たちここにいるの？」
天の声	「あのな、お前たちもいつか パパ みみたいな立派な雲にならなくては いけないんだ。 そのために、その世界で あの、（ス ポット）ハートのかけらという宝物 を集めながら勉強しておいで」
もっくん	「えー、そんなの無理だよ！パパの ところに帰りたい」
くーちゃん	「もっくんみて！かけらをはめると ころが3つあるよ！ きっと3つ集 めればパパの所に帰れるんじゃない？」
もっくん	「でも…ここは知らない世界だよ。 僕怖いし…。行きたくない…」
くーちゃん	「もう、もっくんいつもうじうじ言っ てばかり！ ここにいたってパパ の所には帰れないんだよ！ ぼくは帰りたいから探しに行くよ、 じゃーね！」（くーちゃん下手へ）
もっくん	「ああ、くーちゃん行っちゃった。 ここに一人でいるのも寂しいし… やっぱり僕もいこう！くーちゃん 待ってー！」（もっくん下手へ）

ー暗転ー カーテン（半開） モビール（下）

大道具（花・木） 照明（ステージ全体）

ちょうちょ、はち登場 くも登場



もっくん 「あ、ちょうちょさんとはちさんが
いるよ！」
くーちゃん 「ちょうちょさん、ここはどこ？」
ちょうちょ 「はじめまして。」「ここはちょうと
はちの住む世界よ。」
ちょうちょ ♪ わたしたちは ちょうちょ
白くてきれいな羽根で 自由に空を
とべる
楽しい世界でしょ
はち 「ちょっと、待ったー！おれたちにも
紹介させてくれ」
♪ はちはち ブブンブン おれ
たち はちだ みてみて このお
しり チクンとさしちゃうぞ
「この森にはとてもきれいなちょう
の女王様が住んでるんだぜ！」
「あ、見てみて！」

はち ちょう 「アゲハ様のお出ましだ〜！」
スポットライトを消す 客席のアゲハにスポッ
トライト



アゲハ 「ああ。今日もわたくしは世界で一
番美しいわ。皆さんもそう思うで
しょ？」

アゲハゆっくり階段を降りてくる

アゲハ ♪ わたくしは アゲハちょうの 女
王様よ キラキラキラ きれいなも
の 大好き 全部わたしのもの
くーちゃん 「ねえ、もっくん。あれ、もしかし
てぼくたちが探している宝物？」
もっくん 「ほんとだ！さっきパパが言ってた

ようにハートの形をしているよ」
くーちゃん 「じゃあ、あれを集めれば、僕たち
立派なくもになって、パパのところに
帰れるんだよね？」
もっくん 「そっか、じゃあ、アゲハさんにも
らいに行こう！」
く、も 「あの一」
もっくん 「アゲハさん、それ僕たちにくれな
いかなあ？」
アゲハ 「あなたたち誰？無礼だわ！わたく
しに名も名乗らず話しかけるなん
て！」
くーちゃん 「そういえばまだ」
もっくん 「ぼくたちの名前」
く、も 「言ってなかったね！」(客席に向い
て)



♪ ぼくたち くもの子 お空から
やってきた ケンカもするけど な
かよしさー

くーちゃんは元気 楽しいこと大好
き もっくんは泣き虫 (もう 早
くお家に帰りたい)

立派な雲になるため ぼくら ハー
トのかけら さがしてるー

くーちゃん 「アゲハさん、そのきれいな宝物、
ぼくたちにちょうだい」

もっくん 「ちょうだい」

アゲハ 「いやよ。このかけらがあれば、私
はもっと美しくなれるんだもの。」

はち 「そーだそーだ！」「それは アゲハ
様に必要なんだ！」

ちょうちょ 「そーだよね」(二人向き合って)
 もっくん 「どうしよう、くーちゃん。」(泣く)
 アゲハ 「あら、なぜ泣いているの？」
 くーちゃん 「実はね、僕立ち立派な雲になって
 パパのところに帰るために、その宝
 物を集めているんだ。
 だから、それがないとパパの所に帰
 れないの。」
 アゲハ 「そうなの？知らなかったわ。どう
 しましょう。はちさんたちはどう思
 う？」
 はち 「あげちゃだめだよ」「それはアゲハ
 様にお似合いなんだ！」
 アゲハ 「そうよね。これは私にとっては宝
 物。ちょうちょさんたちはどう思
 う？」
 ちょうちょ 「でも一、返してあげないと雲さん
 たちは帰れないんでしょ。」「それ
 じゃあ、かわいそうだよ」
 アゲハ 「そうね。会場のみなさんはどう思
 う？」(会場からの返事)
 アゲハ 「そうよね。くもさんたちがそんな
 に困っているなら助けてあげましょ
 う」
 くーちゃん 「ほんとに一！？」
 はち 「アゲハ様がそういうなら…」
 ちょうちょ 「さすがアゲハ様！」「すてきです
 わ！」
 アゲハ 「くもさんたち、このカケラを差し
 上げるわ」
 くも 「ありがとう、助かったよ。」「みん
 なのおかげでひとつ目の宝物みつ
 けた！」(決めポーズ)
 「それじゃあ、ふたつめの宝物を探
 しにいってきまーす！」

宝物をクローバーにはめる アゲハ、ちょう、
 はち 見送る
 「がんばってねー！」

—暗転—

カーテン(閉) モビール(上) 大道具(草・竹)
 スポットライト照明 (全体 暗め)

お松 「しめじーしめじー」
 しめじ 「はい、お松様」
 お松 「このお三味線を弾きたいのだけれ
 どばちが見当たらないのよ。何か知
 らない？」
 しめじ 「さっき、こんなものをひろったし
 め！」「これでどうしめ？」
 お松 「ちょっとちがうじゃない。まあい
 いわ。使ってみましょう。(三味
 線を弾く) まあ すてきじゃない。
 それでは一曲。さんはい」



お松 しめじ ここはきのこの深い森(しめ)
 わたくしお松と申します(しめしー
 め)
 きのこのほうしが 舞い降りた の
 このこ のこのこ きのこ

くも登場

くーちゃん 「なんかひんやりしてるね…」
 もっくん 「なんか暗いね」
 しめじ 「きみたちは 誰しめ！」「この辺
 じゃ見ない顔しめー」(くもにちょっ
 かいをだす)
 お松 「しめじ、しめじ、どうしたの？」
 しめじ 「お松さま〜」(駆け寄る)「知らな
 い子がいるしめー」「あやしいし
 めー」
 お松 「あなたたち、だあれ？」
 くーちゃん 「ぼくはくもの子くーちゃん。」
 もっくん 「ぼくはもっくん。」
 お松 「まあかわいいくもの子たち。よく
 いらっしゃいました。私は松茸のお
 松。どうぞこちらへ。どうしてこの

きのこの世界へ？」
くーちゃん 「ほくたち立派な雲になるために、
宝物を集めているんだ！」
お松・しめじ 「たからもの？」
もっくん 「その宝物はね、ハートの形で、キラキラしてて…お松さんたち知らない？」
お松・しめじ (これのこと…？という感じ)
お松 「もしかして、それって このことかしら？」
くーちゃん 「あーっ、それだ！」
もっくん 「それ僕たちにください！」
お松 「困ったわねえ。これがないとお三味線が弾けないし…どうしましよう？」
しめじ 「どうしましよう？」(立つ) **照明を暗くする**
毒キノコ 「ちょっとしめじー！」
しめじ 「わあ、毒キノコだあ。」(草のかげに隠れる) **毒キノコ登場**
毒キノコ ♪あたい 毒キノコ！ 地味なきのこより あたいが1番いけてるのよー



毒キノコ 「あーうるさい！ あんたたち、あたいの歌の邪魔をするなんて！しめじのくせに。」



しめじ 「わー怖いしめー」「お松様ーたすけてしめー」
お松 「まあ毒キノコ、また しめじたちをいじめにきたのね。」
毒キノコ 「だって、それはしめじたちがあたいに一度もじゃんけんで勝てないのがいけないんじゃない。いつも言ってるでしょ、一度でもあたいにじゃんけんで勝てたら しめじたちをいじめるのは やめてあげる。」(しめじ何か思いつく)
しめじ 「くもさん、助けてしめー」「僕たちのためにじゃんけんで勝ってほしいしめー」
お松 「私からもおねがいします。くもさんがじゃんけんに勝つことができれば、この宝物も返すわ。」
くーちゃん 「わかった！がんばる！」
毒キノコ 「あたいと勝負？勝負になるのかしら？」
もっくん 「負けないもん！」
毒キノコ 「三回のうち一回でもあたいに勝てたらあんたたちの勝ちよ。まずはあんたからよ」
くーちゃん 「よーし、がんばるぞ！」のこのこじゃんけん ジャンケンポン！
毒キノコ 「あたいはパーよ」
くーちゃん 「ほくはグー。わーん、負けちゃった」
毒キノコ 「さっすがあたい！次はあんたよ」
くーちゃん 「もっくん、がんばって。」
もっくん 「うん、がんばる」 のこのこじゃ

んけん ジャンケンポン！
 毒キノコ 「あたいはグーよ」
 もっくん 「ぼくはチョキ。負けちゃったー」
 くーちゃん 「もっくん！」(かけよる)
 毒キノコ 「ほーら、やっぱりね。なんとやっ
 てもあたいが勝つじゃない。次が最
 後のチャンスよ」
 くーちゃん 「最後はぼくたち二人で力をあわせ
 て頑張るよ」
 しめじ 「会場みんな、僕たちと一緒にく
 もさんを応援してほしいしめ！」
 「ぼくたちと一緒にがんばれって
 言ってほしいしめ！」
 「せーのっ」(がんばれコール)
 もっくん 「なんだか勝てる気がしてきたよ」
 くーちゃん 「みんな、ありがとう」
 もっくん 「じゃあ最後はみんなで毒キノコさ
 んと戦おう！ 毒キノコさんには内
 緒だよ。次はこれをだすからね」(み
 せる)
 「じゃんけんぽんの合図でみんなも
 一緒にだしてね。さあ、毒キノコさ
 ん！勝負だ」
 毒キノコ 「それじゃあ、いくわよ！」のこの
 こじゃんけん ジャンケンポン！
 毒キノコ 「あたいはグーよ」
 くも 「ぼくたちはパー！やったあ勝っ
 た！ みんなのパワーのおかげだ
 よ。みんなありがとう」(みんなで
 喜ぶ)
 毒キノコ 「あー悔しい。あたいが負けるなん
 て！でも約束だからしかたないわ。
 しめじたちをいじめるのはやめてあ
 げる」
 くーちゃん 「しめじさんたち、よかったね」
 もっくん 「これからは みんな仲良くね」
 しめじ 「なかよくするしめー」「もう い
 じめないでしめー」
 お松 「くもさんたち ありがとう。これ
 はあなたたちにあげるわ」(宝物を
 わたす)

くも 「えーっいいの？」「それがないとお
 三味線、ひけないんでしょ？」
 お松 「いいのよ。わたしのばちは探せば
 どこかにあるわ」
 くも 「ありがとう、助かったよ！みんな
 のおかげでふたつめの宝物みいつけ
 た！」「それじゃあ、最後の宝物を
 探しに行ってきたーす！」
 お松、しめじ、毒キノコ なかよく遊びなが
 ら見送る
 ー暗転ー
 カーテン(閉) セットチェンジ(暗い音楽)(薄
 暗い照明)(暗い音楽) 元気がないお花たち
 チューリップ 「あーのどが乾いたー。」「くるし
 いよー。」
 花たち全員 ♪「何日も前から 雨が降らなくて
 私たちは枯れてしまったの でも本
 当はきれいに咲けるの 誰か雨を降
 らせておくれよ」
 (雨の音)(照明だんだん明るくなる)
 ゆり 「あら？雨が降ってきたわ。」
 花たちだんだん立ち上がる カーテン(全開)
 曲に合わせて踊る
 チューリップ 「この、お花の世界にも雨が降っ
 てよかったね。」
 つくし 「これでまたみんなで元気に踊れ
 るっぺなあー。なあ、ゆりさん。」
 ゆり 「そうね。」
 つくし 「なあ、ばらさん。」
 ばら 「そうね。」
 つくし 「なあ、ひまわりさん。」
 ひまわり 「そうだねー。みんなで一緒に踊ろ
 う＼＼！」(くも登場・下手にい
 る)(花たち くもに気づく)
 全員 「あんれえ？」
 ひまわり 「君たち、だれだ＼＼！」(くもを
 引っ張る)「おいでおいで！一緒に
 踊ろう」



くも 「はじめまして、ほくたちくもの子」
(くもお花たちの輪に参加)

ひまわり 「おれたちひまわり!」「俺たちの
自己紹介、きいてくれ!」「ミュー
ジック、スタート!」

ひまわり ♪「いつもニコニコ笑ってる!
(YO!)それが俺たちひまわりさ!
(YEAH!)
目指すは太陽サンサンサン!(SUN
!) 毎日サンデーサンサンサン!
Fu----!!)」

ひまわり 「次は君たちの番だよ!」「うたって、
うたって!」

チューリップ 「えー?はずかしい。」(恥ずかし
がるかんじで)

ばら 「いいからはやく行きなさいよ。」

チューリップ セーの

♪「わたしたちは チューリップ
かわいくて 仲良しな 三姉妹 い
つも一緒に歌ってる 君も一緒に歌
おう」



ばら (せきばらいをしながら出てくる)
「次は私の自己紹介よ。」

ゆり (せきばらいをしながら出てきて、
ばらの前へ)「いいえ、わたくしから
自己紹介させていただくわ。」

ゆり ♪「おー わたくしは ゆり 白く
てきれいでしょ 誰にも負けないこ
の白さ 私が一番よ」

ばら ♪「おー わたくしは ばら 赤く
てきれいでしょ 綺麗なばらには
トゲがある 私が一番よ」

ばら (おー)

ゆり (おー) × 5 ずつ位 … ばら・ゆ
り張り合う



ばら 「わたしのほうが きれいな声ね。」
ゆり 「いいえ、わたくしのほうがきれい
な声よ。」(お花たち、つくしに仲
裁を頼むしぐさ)

→つくしの前奏(つくし ばらゆりの間にはいっ
ていく)

つくし ♪「まあまあ落ち着いて ケンカは
よくないって 母ちゃんが言って
たさあ おらは 田舎の つくし
だっぺさ」

つくし 「二人とも、せっかく元気になれた
んだから仲良くするっぺよ。」

ゆり・ばら 「そうね。」

チューリップ 宝物をもって前にでてくる
チューリップ 「元気になれたのも すべて こ
れのお・か・げ! (一人一文字ずつ)
かざっておきましょう」



チューリップ宝物を大道具にはめて飾る 花たち口々に喜ぶ くもステージ前へ

くーちゃん 「あれって…ぼくたちの…」

もっくん 「本当だ…」 (子どもたちに問いかけるような感じで)

もっくん 「あのう…」

くーちゃん 「それ、僕たちが…」

ばら&ゆり 「あら？もしかしてこれ、あなたたちが？」 「…ってマネしてんじゃないわよ！」

つくし 「おーい、みんな！あの宝物 この子たちがくれたみたいだっぺ。ありがてえなあ…」

(手招きしながら) (花たち中心に集まってくる)

全員 「ありがとう！」

くも 「あのね！(大声)」 花びっくりして黙る

くーちゃん 「実は…あの宝物は 僕たちが探していたものなんだ！」

もっくん 「これがないと 僕たちは くもの世界に帰れないの…」 「だから返してほしいんだ！」

つくし 「ちょちょっと待ってくれ！あの宝物をあげちゃうってことは、おらたち また 枯れちゃうってことっぺか？」

チューリップ 「えー。やだよー。」 「枯れたくないよー。」

ひまわり 「俺たちどうなっちまうんだ Y O !」 「大丈夫なのか Y O !」

ゆり 「ちょっと、あなたたち。わたくしたち、もうこんなに元気になったのよ。」

ばら 「そうよ。だからもう、これがなくても大丈夫よ。それに、もともとはこの子達のものですもの。返すわ。」

くーちゃん 「えっ いいの？」

もっくん 「本当にだいじょうぶ？」

つくし 「ゆりさん、ばらさんがそう言うなら大丈夫だっぺ。」 (全員納得する)

花 「そうだね」 (ばら 宝物をくもに返す)

ばら 「どうぞ。」

くも 「ありがとう助かったよ！みんなのおかげで最後の宝物みつけた！これでぼくたち、パパの所に帰れるよ！」

ゆり 「よかったわね。」

くも 「お花さんたちとも仲良くなれたし みんな一緒におどろう！」

(音楽に合わせてみんなで踊る) (しかし、だんだん 花たちは枯れてしまう)

もっくん 「やっぱりみんなでおどるのは楽しいね」

くも 「ね！お花さん！」 (後ろを振り返る) 「あれ？」

もっくん 「つくしさん！」

くーちゃん 「ちゅーりっぷさん！」

もっくん 「ひまわりさん！」

くーちゃん 「ゆりさん！ばらさん！」

もっくん 「みんなどうしちゃったの？」

くーちゃん 「さっきまであんなに元気だったのに」



もっくん 「もしかして…僕たちがこのかけら
をもらっちゃったから？」
くーちゃん 「僕たちのせいってこと？じゃあこ
のかけら、返さなきゃ！」
もっくん 「ちょっとまって！それを返し
ちゃったら僕たちパパの所に帰れな
くなるよ？」
くーちゃん 「あ…そっか。でもこのままじゃ
お花さんたちがかわいそうだよ」
もっくん 「わかってるけど…。じゃあくーちゃ
んはパパの所に帰れなくてもいい
の？」
くーちゃん 「じゃあもっくんはお花さんたちが
このままでもいいの？」
もっくん 「そんなことないよ！でもパパの所
に帰りたいし、お花さんにも元気に
なってほしいし…
どっちも大切だからどうしていいか
分かんないよ！」(泣く)
くーちゃん 「もっくん泣かないでよ。僕だって
分からないよ」(くーちゃんも泣く)
アゲハ 「くーちゃん」(スポットライト)
くーちゃん 「あっ アゲハさん…」
お松 「もっくん」(スポットライト)
もっくん 「あっお松さん…」
くーちゃん 「ねえ、もっくん。僕思い出したん
だけど、アゲハさんは大事にして
た宝物を僕たちにためにくれたよ
ね。」
もっくん 「うん。お松さんも 大切な宝物を
僕たちのためにくれたね。」
くーちゃん 「僕ね、助けてもらったからここま
でこれたと思うんだ」
もっくん 「そうだね…。アゲハさんやお松さ
んが僕たちを助けてくれたように
今度は僕たちがお花さんを助ける番
じゃないかなあ。」
くーちゃん 「うん。今お花さんたちを助けてあ
げられるのは僕たちしかないもん
ね。」

もっくん 「困っているお花さんをおいて帰る
なんてできないよ」
くも 「くーちゃん！もっくん！ 返そ
う！」(くも移動)
くも 「お花さん元気になって！せーのっ」
(花喜びながら元気になる)
花 「くもさん、ありがとう」
くも 「僕たちも元気になってくれてうれ
しいよ。」

ベルの音 (花 動きストップ)

天の声 「お前たち聞こえるか。パパはずっ
と見てたぞ。それが助け合うとい
うことだ。助け合うことができるお
前たちはもう立派な子どもだ。帰っ
ておいで。」(花再び喜びだす)
くーちゃん 「そっか。パパは助け合うことの大切
さを伝えたかったんだね。」
もっくん 「誰かのために何かをするってこん
なにうれしい気持ちになるんだね。」
くーちゃん 「助け合うことの大切さに気づけた
のはみんなのおかげだよ」
くも 「みんな、本当にありがとう！一緒に
踊ろう！」

♪メインテーマ(フィナーレのダンス)

くもと花はステージ はち・ちょう・きのこは
客席

(間奏) はち・ちょう・きのこはステージへ

もっくん 「やっぱりみんなでおどると楽しい
ね」
くーちゃん 「こんどは会場のもみんなも僕たちの
まねをして一緒に踊ってみてね！」
(ダンス終了)

もっくん 「みんな」

全員 「ありがとう」(手を振りながら順
にはける)

暗転 セットを片づける 本をステージ上手に
準備

スポットライト 音楽隊 マーチングで登場

音楽隊 「これで このお話はおしまい。ば
いばーい」(本を閉じる)

絵本の後ろからキャラクターが顔をだし、登場

キャスト紹介へ

(全員で中央に集まる)

くーちゃん 「ハートのかげらよりも」

もっくん 「大切なたからもの」

全員 「みいつけた!」「ばいばーい!」

* おしまい *



An Educational Effect of the Operetta Creating Activity at the Training School of Child Care and Education

— From the Practice of “Comprehensive Representation Exercise” 2011 —

FURUYA Shoko SAWANOBORI Fumiko TAKANO Makiko

Abstract

This paper is to summarize the fact of the production and the preparation works made for the public performance of 2011 “Comprehensive Representation Exercise” class intending to specify the outcome of the class.

Firstly, we reviewed the implementation schedule as well as the role sharing to re-check the each scene we have experienced.

Secondly, we conducted audience survey regarding the Operetta Performance, and found the students' intention as well as the result of practice was well conveyed.

Furthermore, we conducted participant survey and summarization of the subject reports after the class to analyze how much the class is educationally effective for the training of kindergarten teachers or child care workers. We can say that the shared experience of successfully executing the performance made from the scratch and inspiring people has given all participated students satisfaction and sense of fulfillment. We can also say such experience will surely help them to form confidence, ambition and courage to confront difficulties in the future. Substantial performing skills improvement was observed. It has become clear that the Operetta Creating is an excellent activity to nourish human nature such as the force of unity, the cooperativeness and the importance to be thoughtful friends. It has also been strongly suggested that the Operetta Creating fosters the ability to accomplish tasks and the skills to solve problems.

Key words : Original operetta, Comprehensive representation, Improvement of expertise, Humanity